

関係機関訪問第6弾

帯広近郊就労系障がい福祉サービス
事業所への聞き取り調査をスタートしました！



令和2年9月4日（金）
ワークサポートふれあい
（帯広市）

令和2年9月9日（水）
きずな西3条店
（帯広市）

令和2年9月9日（水）
コロポックル帯広
（帯広市）

一般社団法人 ふれあいデジタル工房 ワークサポートふれあい（B型）

2010年に就労継続支援B型事業所として開設しましたが、前身である北海道難病連十勝支部や小規模作業所、地域活動支援センターの流れを感じられる理念に基づいた温かい思いを含んだお話を伺うことが出来ました。

現在は難病をお持ちの方だけではなく、一般的に3障がいといわれる身体・知的・精神障がいをお持ちの方も多く登録・利用されており、居場所や拠り所としての役割にも丁寧に対応されている印象を受けました。一方、スキルアップを目指している方の希望に沿って行政機関実習や他事業所との併用を通じた就職に向けての取り組みが出来るような連携も大切にされているようです。今後はより一層地域の福祉サービス従事者との連携と結束を強めて、お互いの良い面も悪い面も共有し、地域全体で切磋琢磨していきたいという意気込みも聞くことが出来ました。



代表理事・所長の山根さん（左）、サービス管理責任者の富田さん（右）にご対応いただきました。

就労継続支援B型事業所 きずな西3条

今年の5月に出来たばかりの新しい事業所にお伺いしました。事業所内は、すっきりとして動きやすく、集中して作業ができる空間でした。利用者の希望に出来るだけ沿うようにその方の今の状況はもちろん、これまでの経緯、今後を見据えた支援をどのように行っていくかを常にスタッフの方々が情報共有をし、ご対応されているお話を聞かせていただきました。

個々の利用者の方への手厚い関わりはもちろん、新しいスタッフの方に対してはサービス管理責任者の鈴木さんが自らが作成した対応マニュアルを渡し、先輩がマンツーマンで指導され、現場で出てきた疑問・課題などをその場で拾いその場で解決できるよう、引継ぎなど意識して行われているようです。そうすることで、その方とより深く向き合えるようになり、一段とニーズにあった支援ができていくと考えている現場の話をお聞きすることが出来ました。



取締役部長の谷澤さん（右）サービス管理責任者の鈴木さん（左）にご対応いただきました。

地域活動支援センター コロポックル帯広

高次脳機能障がいの方に特化した日中活動の場として、道内に4カ所ある内の1つであるコロポックル帯広へお伺いしました。平成13年の開設当初は保健所や医療機関を通じて利用へ繋がるケースが多くあった様ですが、最近では地域に福祉サービス事業所等の資源が増えたこともあり、就職を目指している方は就労系の事業所を利用されるなど、ご本人のその後の生活方針によって様々な選択肢がある中、コロポックルへは、主に憩いの場・集いの場を求めている方が多く利用されているようです。お話を聞かせて頂く中で、体験や経験を共有できる方達が集う場所だからこそ、お互いを分かり合ってフォローし合える関係性ができたり、利用者や職員に大きな異動がないことで、長い関わりの中での穏やかな信頼関係が築かれている居心地の良さなどを伺うことが出来ました。また、各地の同じ活動をされている方々との交流や障がい特性について学ぶ機会があったりと、仲間同士の繋がりを大切に活動されている状況についてもお聞きすることが出来ました。



スタッフの奥山さん（左）、菅谷さん（右）にご対応いただきました。